

### 地域交流

中学生ブリッジコンテスト/山口県建設業協会  
長府企業フェスタ/下関支部  
いきいきのびのび ながとふるさとまつり/長門支部

# 3つの初！地域と触れ合うイベント参加！！

■強く、軽く、美しい  
橋を目指して！  
「中学生ブリッジコンテスト」  
初開催！！

8月24・25日の2日間、徳山駅ビル2階・市民多目的広場にて「中学生ブリッジコンテスト」を開催しました（山口県立徳山商工高等学校主催、社山口県建設業協会共催）。

これは中学生に、ものづくりの楽しさを体験してもらい、建設業、また土木・建築系専攻科のある実業高校への興味関心を高め、もらう目的で実施したもので、今回が初の試みとなります。一般公募に応募された中学生10名が参加し、徳山商工高等学校の生徒がサポートにつきました。

コンテストのルールは、軽量の木材であるバルサ材を使用して、オリジナルの橋の模型を製作し、「デザイン・軽さ（経済性）・強さ」を競い合うというものです。



1日目にまず橋の構造を学び、基本の模型をつくった後、オリジナルの橋を製作。2日目に作品のプレゼンテーションを行い、デザイン、質量

強度について審査が行われました。完成した橋は、それぞれ個性的な形をしていて、アイデア溢れるものばかり。基本構造を満たした上で自由な発想がみられる橋に、審査員の方々も感心し、熱心に聞いておられました。



途中、「ミシッ！」「パキッ！」と音がするものもあり、会場に緊張が走りましたが、なんとすべての橋が最高得点である5キロの荷重に耐え、拍手がわきました。

大接戦の中、優勝を掴んだのは、岩国市立本郷中学校2年の三浦祐平くん。27・81gという最軽量の質量が勝利の決め手となりました。参加した中学生からは「カッターで正確に木材を切るのが難しかった」「こういったものをつく

るのは初めてだったけど、とても楽しかった。またやってみたい！」と声が聞かれました。

また、サポートした高校生は「言いたいことがうまく伝わらず、自分で作るよりもとても難しかった。教える大変さがわかった。中学生の皆さんは短時間でよくここまでできたと思う」と驚いた表情を見せていました。

コンテストの最後には、中学生、高校生ともに清々しい笑顔が見られました。一から橋をつくるだけでなく、プレゼンテーションでその魅力を伝えるところまで実施された今回の大会。達成感とともに、ものづくりの楽しさをしっかりと感じられたのではないのでしょうか。この日芽生えた興味の芽が、すくすくと育っていくことを願います。



■「長府企業フェスタ」に  
下関支部（下関土木協会）が  
初参加しました！



爽やかな秋晴れに恵まれた10月6・7日、長府松小田町の下関競艇場にて「第10回 長府企業フェスタ」が開催され、下関支部（社下関土木協会）が初参加しました。「長府企業フェスタ」は、人とまちと企業のふれあい、をコンセプトに、下関市長府地区の企業が自社の商品や技術のPRを行い、さまざまなイベントで地域を盛り上げるもので、毎年大勢の家族連れなどで賑わいます。

下関支部では、災害復旧や道路美化活動の取り組みを知ってもらうと、パネル展示や映像を使っている紹介が行われたほか、道路豆知識クイズや防災相談コーナーが開設されました。



富田実さん 中村高志下関支部長

また、子ども達も楽しめるようにと、おもちゃの重機でお菓子をつりあげる「重機で遊ぼう！」コーナーを設置。あつという間に行列ができるほどの大盛況となり、たくさんの子ども達が真剣な表情でミニ重機を操縦していました。（社）山口県建設業協会の副会長・下関支部長である中村高志さん（住吉工業(株)代表）は、イベントを主催する長府扇町安全協議会で副会長を務められており、第1回目の開催から携わっておられます。今回の経緯を伺うと、「企業が多くの集まる長府ですが、もともとはつながりも薄く、となりが何をやる会社か分かりませんでした。しかしそれではいけない。企業同士が力を合わせて地域を守り、魅力を知ってもらおうと、このイベントが始まりました。今回、下関支部が参加したことで、地域に根ざした活動をより多くの人に知って頂ければ」と語って下さいました。また、ブースで指揮をとられていた下関支部の富田実さん（田村



建設(株)代表) にお話を伺うと、「初めての取り組みで、どうやって皆様に見て頂くかと思案しましたが、たくさんの人に楽しんで頂けてよかったです。防災相談コーナーでは、実際に災害に合わせた方からの相談もありました。下関市では平成11年に台風による大きな被害が出ましたが、近年の東日本大震災、たびたび起こる集中豪雨など、市民の皆さんの災害に対する不安も高まっているように思います。地域の方々ともふれあうことで、私たちも普段の清掃活動や安全パトロール、災害時の対応などの大切さを実感しています」と話しておられました。

■「いきいきのびのび  
ながとふるさとまつり」に  
長門支部が初参加！

10月28日（日）長門市東深川で「第28回 いきいきのびのびながとふるさとまつり」が開催され、長門支部が初参加しました。「いきいきのびのびながとふるさとまつり」は、長門市役所や長門市中央公民館を会場に、ライブ、キャラクターショーなどのステージイベントや、地元特産物の出店が並ぶ、長門の一大秋祭りです。

長門支部は7社からそれぞれ有志が参加し、子ども広場で「防災・重機体験コーナー」の運営にあたりました。ブースでは、防災や清掃活動の紹介パネル展示、ユニークな土のうづくり体験、本物のパワーショベルに磁石をつり下げ、操縦して鉄板をつり上げる「重機体験コーナー」を設置。瞬間に行列になり、午前中で景品がなくなるほどの嬉しい悲鳴が上がりました。ブースで指揮をとられていた長門支部の中原晃弘さん（ナカケン(株)代表）にお話を伺うと、「建設業の仕事は、汗にまみれた雰囲気や、キツイ」というイメージがありますが、可能性ややりがいの詰まった素晴らしい仕事です。



ヘルメットをかぶり、パワーショベルの操縦席に乗り込んだ子ども達のイキイキとした表情がとても印象的だった「重機体験コーナー」。大きな重機を操縦することの楽しさが伝わって、建設業への興味の芽が出るきっかけになればと感じました。



また地域貢献活動に取り組む傍ら、このようなイベントで地元の方々に実際に見て、触れてもらうことで、建設業への理解を深めてもらえることを期待します。



中原晃弘さん

また地域貢献活動に取り組む傍ら、このようなイベントで地元の方々に実際に見て、触れてもらうことで、建設業への理解を深めてもらえることを期待します。